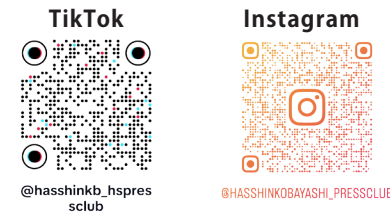




市内の高校生 50 人を高校生記者に任命 若者の目線・感性でまちの魅力ハッシンに挑戦



研修では、実例を交えながら“バズる”動画の作り方を教わった後、実際にその場で撮影した動画を編集するなど制作のコツを教わりました



Instagramに加え、今年からTikTokも運用します。ぜひフォローください

高校生記者クラブ
第3期が始動

高校生らしい目線や感性でまちの魅力を再発見し、若い世代へ発信する「ハッシンコバヤシ!!高校生記者クラブ」の第3期が始動しました。

令和4年度から続くこの取り組み。高校生のキャリア教育や郷土愛醸成にもつながると、さまざまなメディアにも取り上げられるなど注目を集めています。

3年目となる今年は、市内3つの高校の1・2年生50人を高校生記者に

任命。7月26日にTEAM AMU交流スペースで開かれた任命式で、記者の証である腕章を授与しました。

また、高原町在住のインフルエンサーとして活動する(株)オイシードカンパニー村田健代表取締役と同社ムラタ拉麴の濱田亜利寿店長を講師に招き、高校生の発信力向上を目的とした研修も開催。

今後高校生記者は、SNSでの情報発信を中心に活動します。赤い腕章を付けた高校生記者を見かけたらぜひ応援してください。



小林秀峰高校2年 尾園莉奈さん

経験通じ、将来へのイメージを広げたい

将来、広告プランナーや雑誌の編集など、情報を発信する仕事に就きたいと思っています。1年間の記者クラブでの経験を通して、将来の目標のイメージを広げていきたいです。



小林市について学びSNSでPRしたい

小林市について学んでいきたいです。見つけた小林市の魅力をSNSなどでPRしていけるようにがんばりたいと思います。



小林西高校1年 中原亜莉寿さん

宮崎県外の出身なので、これから小林市について学んでいきたいです。見つけた小林市の魅力をSNSなどでPRしていけるようにがんばりたいと思います。

この夏をチカラに変えて 進め小林の子どもたち

パリ 2024 オリンピックに沸いた今年の夏。
取材先で、競技に挑むアスリートにも負けないくらい
真剣に「学び」と向き合う小林の子どもたちと出会いました。
子どもたちが、考え、挑戦する姿を、写真やインタビューでお届けします。





photo6 ギフトラッピングのお仕事体験。ペーパーやリボンを使ってお菓子ブーケが完成 7 プログラマーのお仕事体験。プログラミングでゲームを制作 8 アナウンサー・声優のお仕事体験。声の抑揚の付け方などを教わりナレーションに挑戦 9 お花屋さん（フラワーデザイナー）のお仕事体験。バランスよくお花を生けていく 10 薬剤師のお仕事体験。処方箋に基づいて患者さんへ薬を処方



photo1 こども議会の参加者。小学2年生から中学3年生まで幅広い学年の子どもたちが集まった 2・3 メンターの助けを借りながら、アイデアをまとめていく。「空き家を活用して子どもの学習スペースや遊び場にする」、「子ども同士で定期的に意見交換できる場をつくる」などグループごとにさまざまな意見が出された 4・5 まとめた法律（ルール）を大人や他のグループの参加者に説明

～学びの1週間～

楽しみながら社会の仕組みを学ぶ 11のブースで小・中学生が仕事を体験

8月4日には、「学びの1週間」の一環で、小・中学生がさまざまな仕事を体験できる「キッズタウンTENAMU」（小林商工会議所主催）が開催。

会場には、地元企業などによって、銀行員、プログラマー、薬剤師などの仕事に体験できる11のブースが設置されました。

子どもたちは興味のある職業のブースを選び、銀行窓口でお金の入金や支払いを体験したり、ゲームのプログラミングに挑戦するなど、さまざまな仕事を体験。仕事を終えた子どもたちは、最後にお給料（商品券）を受け取り、仕事の楽しさや大変さを学びました。

このほか、「学びの1週間」では、音楽に合わせて体を動かし表現力を育むリトミック教室や起業家による講演など、多様な学びの場が設けられました。

イタリアンのコックの仕事体験



④ 和田 渉夢 さん（南小5年）
料理が好きで料理人の仕事に興味があります。完成した料理を、一緒に来たおばあちゃんにおいしく食べてもらえてよかったです。

⑤ 坂上 希恵 さん（紙屋小4年）
将来家族ができたときに料理ができたらいと思い参加しました。玉ねぎを剥くのに苦戦しましたが、おいしい料理ができました。

美容師の仕事体験



⑥ 田中 杏樹 さん（三松中2年）
将来の夢は美容師です。カットするときのハサミの動かし方が難しかったですが楽しかったです。将来の夢につながる経験になりました。

体験の様子を見守った
⑦ 田中 沙織 さん
美容師は技術だけでなく気配りも必要な仕事なのだと感じました。今回の経験が将来の夢への意欲につながってくれたらと思います。

～学びの1週間～

「こどもまんなか社会」実現のためのルールを 学校・学年が違う仲間と一緒に考える

小・中学生27人が参加「こども議会」

子どもたちの学びを後押ししようと1週間にわたりさまざまなキャリア教育プログラムが開催された「学びの1週間」（絆を結ぶ物語）実行委員会主催。

初日の8月3日には、市内小学2年～中学3年生27人がTENAMU交流スペースに集まり、「こども議会」が開かれました。

テーマは「こどもまんなか社会を作るためのルール」。

いろいろな意見があることを知れました

「こどもまんなか」という言葉が気に入り、おもしろそうだと思って参加しました。話し合いでは、他の人が持っているいろいろな意見や自分とは違った意見を知ることができました。休憩中などにグループの人と話したことも楽しかったです。

三松小学校5年 大平落 幸 さん



未来を創っていくのは子どもたち 今回のような機会が広がってほしい

子どもたち自身が未来志向で一つのテーマを考えるワークショップのようなものは、高知県も含め地方にはなかなかありません。立場の違う人と話し合うことは、子どもたちにとって新鮮な経験だったと思います。このような場が1回で終わらず広がっていけば「こどもまんなか社会」に近づいていくのではないかと思います。



メンターとして参加した高知県の高校教諭
いしまる こうき 石丸 滉貴 さん

「こどもまんなか社会」を実現するためのルールを、子どもたちが大切にするための法律（ルール）やそれを守ることによってどんな社会になるか子どもたち自身が想像し、話し合いました。

メンター※として参加した大人のサポートを受けながらまとめた法律は、「コバツ基本法」や「こどもスマイル法」などと名付けられ、後半では、法律の内容を大人や他のグループへ説明するプレゼンテーションにも挑戦しました。

※自身のキャリアをもとに助言・指導し、グループ全体の成長を促しサポートする役割

この夏をチカラに変えて

進め小林の子どもたち

4人は、先端技術を活用することで年齢や性別などを越えて楽しめる「超人スボーツ」の開発・運営などを手掛ける会社や、東大

市と連携協定を結ぶ東京大学先端科学技術研究センターの協力で、小林高校の生徒が現地研修プログラムに参加しました。参加したのは小坂虎太郎さん、吉村昇龍さん、山内祥太さん、辛島漱一郎さん。

日本最高峰の学びを 高校生4人が体験

photo1 稲見教授から研究室の説明を受ける4人 2 歩行が困難な人たちが自分の足でペダルを漕いでリハビリできる車いす「COGY」を体験 3 稲見研究室に所属する大学院生との研修の様子



先端研の稲見昌彦教授の研究室を見学したほか、先端研内外のさまざまな専門家が分野を越えて話し合うイベント「先端研クロストーク」を受講。また、稲見教授の研究室の大学院生と一緒に、映像や音楽などのシステムを構築できるツールを使い、人間の知覚を拡張するアイデアの提案やデモ作成にも挑戦し、その成果を研究室の学生に向けて発表。日本最高峰の学びを体験しました。



Photo 4 段ボールを組み合わせて、教室で寝床やベッドを制作



5 30kgある人形を声掛けしながら担架に移し替え、搬送する訓練

貴重な体験できてよかった

今回のような避難所運営訓練は初めて体験しました。実際に地震が起きたときにどのように動けるかは、訓練を体験しているかどうかで全然違ってくるのではないかと思います。今回、学校のみならず訓練を体験できてとても良かったです。



野尻中3年 深野木 悠さん

午前中は、危機管理課や消防団による講話・体験に加え、小林市災害ボランティアコーディネーターセンターの指導を受け新聞紙を使った防災スリッパ製作やロー

大規模災害に備える
実践的な訓練で
野尻中学校では、夏休みを利用して、3年生を対象にした避難所運営訓練を実施しました。大規模災害時の行動を学んで知識を深め、地域貢献できる人材を育てようとPTAが主催。

また、午後からは、段ボールを使って寝床やベットの製作したほか、けが人を見つけた担架で搬送する災害救助訓練を行うなど、災害時に役立つ実践的な知識を身に付けました。



消防団ドローン隊からドローンの操作について教わる生徒たち

例年にない暑さとなった今年の夏。取材先で出会ったのは、暑さをものとも

しない、小林の、そして日本の未来を背負う子どもたちの頼もしい姿でした。

この夏の「学び」をチカラに変えて、未来へ進め小林の子どもたち！

この夏の学びがきっと、 未来を創るチカラになる